

研究公開文書

2019年4月1日

研 究 名	妊娠初期の感染性疾患スクリーニングが母子の長期健康保持増進に及ぼす影響に関する多施設共同前向き観察研究 Pregnant Women Health Initiative (PWHI) Project
研究の概要	<p>お母さんとお子さんが妊娠中から出産後も長期にわたって健康を保ちながら健やかに生活していくことができるように、あなたの住民票がある市区町村（自治体）は、妊婦健診の中で様々な検査費用の補助をしています。しかしながら、その結果を自治体がきちんと把握して、妊娠中から出産後にどのようなお手伝いをするのがお母さんとお子さんの健康増進にとって必要かについては、わかっていません。妊娠初期検査には、妊娠中から出産後にわたりお母さんとお子さんの健康に影響を与える可能性があるウイルスや細菌による感染性疾患として、B型肝炎ウイルス（HBV）、C型肝炎ウイルス（HCV）、風疹、梅毒、ヒトT細胞白血病ウイルス（HTLV-1）、子宮頸がん（ヒトパピローマウイルス〔HPV〕の持続感染により起こることがわかっています）の検査が含まれています。</p> <p>今回の研究は、妊婦さんと出産予定施設の医師の両方の協力を得て、妊娠初期に上記の感染性疾患の検査結果がわかった後に、病気の予防や治療、出産後の健康管理がどのように行われているかについて、妊娠中と出産後（出産予定日より1年半ほどたったころ）の2回ウェブサイト上のアンケート調査として調べさせていただきます。地方自治体の中には、すでに妊婦健診の結果を把握して母子へのサポートを行っているところもあり、そのような試みを行っている地区とまだ行っていない地区の研究参加者のアンケート調査の結果</p>

	<p>についての比較も行います。この研究によって、現在行われている妊婦健診が母子の健康を増進する効果と、自治体が母子の中期長期のサポートを積極的にした方がよい項目について明らかにすることができると考えています。</p>
研究対象	<p>現在妊娠中の20歳以上の女性で、すでに妊娠初期検査を終了し分娩予定日が決定しており、当施設で出産予定の方を対象とします。</p>
研究責任者	<p>[研究全体および当院における責任者] 横浜市立大学大学院医学研究科生殖生育病態医学教授 宮城 悦子 [参加協力施設と責任者] 小田原市立病院産婦人科 部長 平吹 知雄</p>
研究実施期間	<p>本研究の研究期間は、倫理委員会承認日から2023年3月31日までを予定しています。研究参加者登録期間は倫理委員会承認日から2019年3月31日までを予定していますが、参加者が少ない場合は6か月延長する可能性があります。</p>
連絡先	<p>小田原市久野4番地 小田原市立病院 0465-34-3175</p>